

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ア	交流基盤としてのウチナーネットワークの継承・発展	施 策	①国内外のウチナーンチュとの絶え間ない交流
			施策の小項目名	○ウチナーネットワークの継承・発展
主な取組	「琉球・沖縄の知と心」国際発信事業		対応する成果指標	「世界のウチナーネットワーク」サイトのアクセス数（累計）
施策の方向	・国内外県人会や市町村、民間交流団体等との連携の下、10月30日の「世界のウチナーンチュの日」にちなんで世界各地で実施する沖縄に関する様々な取組等を通じて世界のウチナーネットワークの強化を図るとともに、県民や県系人等に対し、移住・移民の経緯や困難を克服してきた歴史や沖縄の文化等に対する理解促進を図りつつ、次世代の担い手の育成や県系人のルーツ調査など、世界のウチナーネットワークの継承・発展に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
海外等で移民資料の収集、移民ルーツ調査、企画展示、講演会を実施する。	県	海外県人会等と連携した海外でのルーツ調査及び資料収集の実施、移民関係企画展示等の開催		
		移民ルーツ調査受付件数(累計)		
		150件	150件(300件)	150件(450件)
担当部課【連絡先】	教育庁生涯学習振興課		【 098-866-2746 】	関連URL https://www.library.pref.okinawa.jp

様式1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名	「琉球・沖縄の知と心」国際発信事業				予算事業名	「琉球・沖縄の知と心」国際発信事業	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度		
一括交付金 (ソフト)	直接実施	18,848	18,212		主な財源	実施方法	当初予算額
					一括交付金 (ソフト)	直接実施	18,420
令和5年度活動内容				令和6年度活動計画			
6月、9月に講演会、8月、2月にブラジル・サンパウロ市等で資料調査・移民ルーツ調査、6月・3月に企画展を開催。				4月に講演会、9月に資料調査、12月・3月に企画展示を開催予定。			

活動指標名	移民ルーツ調査受付件数（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	61件	513件	621件	150件（300件）	100.0%	順調	ブラジルの沖縄フェスティバル等で407件、それ以外で214件、合計621件の移民ルーツ調査を受け付けた。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
令和5年度はブラジル・サンパウロとカンボグランデでの現地の県人会と連携した移民ルーツ調査を実施することなどにより、目標値を大きく上回った。	

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
○渡航記録データベースやデジタルアーカイブの充実を図り、調査・回答時間の短縮などを図る。 ○海外県人会等との連携を強化し、海外においてルーツ調査の受付、調査ができるような体制の構築を支援する。	○渡航記録データベース等のデータの充実により、調査・回答時間の短縮などを図った。 ○海外県人会等との連携を強化し、ブラジル・サンパウロ及びカンボグランデにおいて協働で移民ルーツ調査の受付、調査を実施し、海外における体制の構築を支援した。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑤ 県民ニーズの変化 (外部環境の変化)	国内外での移民ルーツ調査の認知度が高くなり、ルーツ調査の依頼が増加している。	② 連携の強化・改善	海外県人会・ウチナーネットワーク・コンシェルジュ等関係機関の連携を図り、より効率的効果的な事業の実施を図る。

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ア	交流基盤としてのウチナーネットワークの継承・発展	施 策	②交流の架け橋となる人づくり
			施策の小項目名	○様々な分野における留学生や研修生の海外派遣等
主な取組	国際性に富む人材育成留学事業		対応する成果指標	海外留学派遣者数・交流者数（累計）
施策の方向	・児童生徒に対する外国語教育及び国際理解教育の充実を図るため、様々な分野における留学生や研修生の海外派遣など国際理解の促進と主体的に行動する国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施 主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
21世紀の万国津梁にふさわしい国際性と個性を 涵養し、グローバルに活躍できる人材育成を図るた め、高校生を米国、欧州、アジア、南米諸国へ1年 間派遣する（令和5年度は20名を派遣及び令和6年 度派遣生の募集・選考を実施）。	県	高校生をアジア太平洋、欧米、中南米諸国等へ約1年間派遣		
		海外留学派遣・交流者数（長期留学）（累計）		
		—	50人	50人（100人）
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課		【 098-866-2715 】	関連URL
				—

様式 1 （主な取組）

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況

予算事業名

国際性に富む人材育成留学事業（国際性に富む人材育成事業）

主な財源

実施方法

R4年度
決算額

R5年度
決算見込額

一括交付金
(ソフト)

委託

7,437

58,068

令和5年度活動内容

令和5年度派遣生の派遣・滞在（20名）、令和6年度派遣生の募集・選考、令和6年度派遣生の事前研修を実施した。

(単位：千円)

予算事業名

国際性に富む人材育成留学事業（国際性に富む人材育成事業）

R6年度

主な財源

実施方法

当初予算額

一括交付金
(ソフト)

委託

60,573

令和6年度活動計画

令和6年度派遣生の派遣・滞在（21名）、令和7年度派遣生の募集・選考（9月）、令和7年度派遣生の事前研修（2,3月）に係る業務を実施予定。

活動指標名

海外留学派遣・交流者数（長期留学）（累計）

R5年度

進捗状況

活動概要

実績値

R3年度

R4年度

実績値(A)

目標値(B)

達成割合
A/B

0人

—

20人

50人

40.0%

大幅遅れ

・令和5年度派遣生20名の派遣・滞在を実施した。

・令和6年度派遣生21名の募集・選考を実施し、2月に出発前オリエンテーション、3月に保護者オリエンテーションを実施した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
令和5年度の派遣人数について、当初は50名を目標としていたが、世界的な物価高騰や円安、派遣先国における新型コロナの影響等により20名の派遣となった（令和5年度派遣生の募集・選考は令和4年度に実施）。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
・国際情勢及び、感染症の状況を注視しつつ、派遣される生徒の安全を第一に、関係各所と綿密な連携の下、本事業が継続できるように取り組んでいく。 ・ハイブリッドによる研修形式を積極的に活用し、効率的に研修を実施し、派遣生の課題解決を支援するとともに、各種アプリケーションを活用し、研修外でも留学に伴う生徒の心身のケアを行う。 ・コロナ前の留学体制を取り戻すためにも、長期留学に関する情報発信を積極的に行う。また、関連する他の細事業と絡めながら、長期留学に繋げる道筋を立てる。	・委託業者と連絡を密にとり、派遣生の安全を第一に事業を実施した。 ・令和5年度は新型コロナウイルス感染症の状況が比較的落ち着いたため、すべての研修を対面式で実施することができた。 ・長期留学に関する情報発信を積極的行った結果、21名の募集に対し、138名もの申し込みがあった。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	戦争やテロ、物価指数、感染症等、国際情勢による影響や、健康上の問題に留意し、海外派遣については判断する必要がある。	② 連携の強化・改善	国際情勢及び、感染症との状況を注視しつつ、派遣される生徒の安全を第一に、関係各所と綿密な連携の下、本事業が継続できるように取り組んでいく。
② 他の実施主体の状況(内部要因)	約1年間の海外留学において、派遣生は異文化への適応や外国語でのコミュニケーションを図ることに対する不安がある。	② 連携の強化・改善	異文化理解、異文化適応等、委託業者と連携し、事前研修の充実を図っていく。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ア	交流基盤としてのウチナーネットワークの継承・発展	施 策	②交流の架け橋となる人づくり
			施策の小項目名	○様々な分野における留学生や研修生の海外派遣等
主な取組	グローバルリーダー育成海外短期研修事業		対応する成果指標	海外留学派遣者数・交流者数（累計）
施策の方向	・児童生徒に対する外国語教育及び国際理解教育の充実を図るため、様々な分野における留学生や研修生の海外派遣など国際理解の促進と主体的に行動する国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施 主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
グローバルな視点を持った世界で主体的に活躍できるリーダーを育成する基礎作りを図るため、目的を絞った分野での短期研修を体験することで、高校生が海外に目を向ける機会とする。	県	高校生を海外短期研修・交流に派遣		
		海外留学派遣・交流者数(短期研修)(累計)		
		80人	80人(160人)	80人(240人)
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課		【 098-866-2715 】	関連URL
				—

様式1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)				
予算事業名	グローバル・リーダー育成海外短期研修事業（国際性に富む人材育成事業）				予算事業名	グローバル・リーダー育成海外短期研修事業（国際性に富む人材育成事業）			
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度				
					主な財源	実施方法	当初予算額		
一括交付金 （ソフト）	委託	53,363	53,474		一括交付金 （ソフト）	委託	89,583		
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画				
アメリカ高等教育体験研修、中国教育交流研修、専門高校生国外研修、沖縄県高校生海外雄飛プログラム(計74名)を実施した。					アメリカ高等教育体験研修、中国教育交流研修、専門高校生国外研修、沖縄県高校生海外雄飛プログラム(計120名)を実施する予定。				

活動指標名	海外留学派遣・交流者数（短期研修）（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	206人	79人	74人	80人（160人）	92.5%	順調	各派遣国において、語学、リーダーシップ研修、学生交流等、各研修目的に沿って実施した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
中国教育交流研修の派遣人数について、当初は生徒20名の派遣を予定していたが、ビザ取得費用が必要となることや渡航費の高騰等により、派遣人数を15名に削減した。また、沖縄県高校生海外雄飛プログラムの派遣人数についても、当初は生徒20名の派遣を予定していたが、派遣先ハワイの物価高騰、円安、燃料サーチャージの値上げ等により、派遣人数を15名に削減したため、本事業の総派遣人数合計は74名となった。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の取組改善案	反映状況
・国際情勢及び感染症等の状況を注視しつつ、派遣生の安全を第一に本事業が継続できるよう取り組んでいく。なお、国内外の感染状況等により派遣できない場合、代替研修（オンライン）を実施する。 ・事前研修からオンラインを活用し現地とコミュニケーションを図っておくことで、渡航した際のコミュニケーション・エラーを軽減し、円滑な研修を実施する。	・委託業者および関係機関と密に連携を図り、派遣先に係る最新の情報を得ることで、各国の情勢を見極め、すべての事業において、安全に生徒を派遣し研修を実施することができた。 ・現地受入先やグローバル人材による講話等、オンラインを積極的に活用し、本研修との関連性を重視した事前研修を実施したことで、現地における円滑な研修の実施に結び付けることができた。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	・テロや感染症等、世界各地での治安および健康上の問題に留意し、海外派遣については判断する必要がある。	① 執行体制の改善	・現地における研修をより深化させるため、受入先（高校・大学等）やホームステイ、学生との交流を想定した実践的な研修や多様性・異文化理解についての研修を実施する。
⑦ その他(改善余地の検証等)	・短期研修において、語学力やグローバル・リーダーとしての主体性を養うためには、渡航前の事前研修を重点的に実施する必要がある。	④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	・研修全体を通してオンラインを積極的に活用し、現地受入先や派遣者相互でコミュニケーションを図っておくことで、円滑な研修を実施する。

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ア	交流基盤としてのウチナーネットワークの継承・発展	施 策	②交流の架け橋となる人づくり
			施策の小項目名	〇様々な分野における留学生や研修生の海外派遣等
主な取組	アジア高校生オンライン国際交流事業		対応する成果指標	海外留学派遣者数・交流者数（累計）
施策の方向	・児童生徒に対する外国語教育及び国際理解教育の充実を図るため、様々な分野における留学生や研修生の海外派遣など国際理解の促進と主体的に行動する国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組みます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組（アクティビティ）	実施主体	年度別計画		
		活動指標（アウトプット）		
		R4	R5	R6
ICT技術の優位性を活かし、沖縄県とアジアの高校生がオンラインでの協働的な学びに取り組む国際交流プログラムを実施し、多様化・高度化する社会へ対応し、沖縄・日本・アジアの将来を担う国際性豊かな人材の育成を図る。	県	沖縄県とアジアの高校生がオンラインで協働的な学びに取り組む国際交流プログラムを実施		
		海外留学派遣・交流者数（海外交流）（累計）		
		100人	100人（200人）	100人（300人）
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【 098-866-2715 】	関連URL	—

様式1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況					(単位：千円)		
予算事業名	アジア高校生オンライン国際交流事業（国際性に富む人材育成事業）				予算事業名	アジア高校生オンライン国際交流事業（国際性に富む人材育成事業）	
主な財源	実施方法	R4年度 決算額	R5年度 決算見込額		R6年度		
					主な財源	実施方法	当初予算額
一括交付金 （ソフト）	委託	9,584	17,771		一括交付金 （ソフト）	委託	7,021
令和5年度活動内容					令和6年度活動計画		
沖縄県高校生200名・アジア高校生200名を対象とし、オンラインによる国際交流を実施した。実施期間：令和5年7月～10月					沖縄県高校生100名・アジア高校生100名を対象とし、オンラインによる国際交流を実施する予定。実施期間：令和6年7月～9月		

活動指標名	海外留学派遣・交流者数（海外交流）（累計）		R5年度			進捗状況	活動概要
実績値	R3年度	R4年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
	—	159人	230人	100人（200人）	100.0%	順調	プロジェクト活動と講義・ワークショップの2本立てで、沖縄県とアジア高校生がオンラインで国際交流を実施した。

様式1（主な取組）

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
「プロジェクト活動」と「講義・ワークショップ」に取り組み、沖縄県高校生とアジア高校生の国際交流を深めることができた。令和5年度沖縄県高校生参加者230名、アジア高校生参加者111名がオンライン上で交流を図った。	
(2)これまでの改善案の反映状況	
令和5年度の実施改善案	反映状況
・アジアの交流国との連携を強化し、将来的に派遣も含めた事業設計の見直しを検討するとともに、参加者の声をテーマに反映させるなど、事業の魅力化を図る。 ・オンラインのみに捕らわれず集合型の研修等を開催し、プロジェクト活動等で発生する生徒の困り感に対応するとともに、プログラムサポーターを配置し、必要な補助を提供する。 ・計画された広報活動に加え、各種資料配付時点で学校関係者や参加高校生に分かりやすい情報提示を綿密に計画する。使用するメディアだけでなく、募集要項等におけるわかりやすさを追求する。	・事業設計の見直しや事業の魅力化を進めた結果、本事業参加者の満足度調査において、とても満足・満足と答えた割合95.5%と非常に高かった。 ・集合型の研修を一度しか実施できなかった。 ・広報活動が功を奏し、沖縄県高校生230名、アジア高校生111名もの生徒が参加した。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	令和5年度は大変多くの生徒が本事業に参加したが、それ故に参加者個々の相談や要望に対応するために、事業運営が困難となることがあった。	④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化)	参加者数を事業発足時(令和4年度の沖縄高校生100名、海外高校生100名)に戻し、プログラム内容を再度精選しながら、より細やかな指導が行き届くよう本事業を実施していく。
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	新型コロナウイルス感染症の状況も落ち着きを見せてきたため、参加者からの要望にもある「対面型の研修」を増やしていくかどうか検討する必要がある。	⑥ 変化に対応した取組の改善	本事業の趣旨と照らし合わせ、必要に応じて対面型研修の回数を増やしていく。